

題材名 「せんりつでよびかけあおう」 （第1学年 A表現（1）歌唱 B鑑賞）

■本事例のポイント

1. 題材の導入に遊びを取り入れることで、教材曲に親しみながら、音楽を形づくっている要素に気付けるようにした。
2. 撮影した歌唱を見ることにより、自身の表現を客観的に捉え、どのように歌うかについて思いをもてるようにした。

■題材の目標

「呼びかけとこたえ」などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲想と音楽の構造との関わりについて気付くとともに、どのように歌うかについて思いをもち、思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。また、曲や演奏の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴く。

■題材の指導計画（全5時間）

第1次（3時間）

「やまびこ ごっこ」（歌唱）

- ・まねっこ遊びを通して、即興的な呼びかけ合いを楽しむ。
- ・「呼びかけとこたえ」の面白さを感じ取り、どのように歌うかについて思いをもつ。
- ・互いの声を聴きながら、歌い方や声の出方を工夫して、呼びかけ合いを楽しむ。

第2次（2時間）

「こうしんきょく」（鑑賞）

- ・旋律や音色の変化を手がかりに、曲想と「呼びかけとこたえ」との関わりに気付く。
- ・呼びかけ合う旋律のよさや面白さから曲の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴く。

■本時の概要

めあて どのようなやまびこにしたいか考えよう

①「ヤッホー体操」を行い、強弱や音色、音の高さなどの模倣をする。

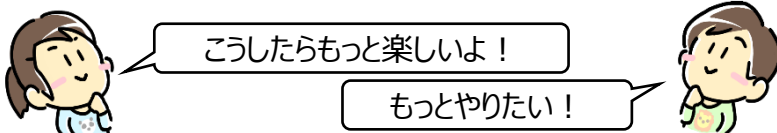
②「呼びかける側」と「こたえる側」に分かれて、立場を入れ替えながら、どのような山びこにしたいか考える。

③歌いながら、なぜそのような思いをもって歌ったのか意見を共有する。



呼びかけにこたえる子供の表現について、なぜそのような歌ったのか問い返ししながら、「呼びかけとこたえ」を思考・判断のよりどころとした、どのように歌うかについての思いを、子供から引き出せるよう工夫しています。

■ 学習調整をしている子供の姿



子供の思考を想定し、子供が「学びたい」と思える導入に！

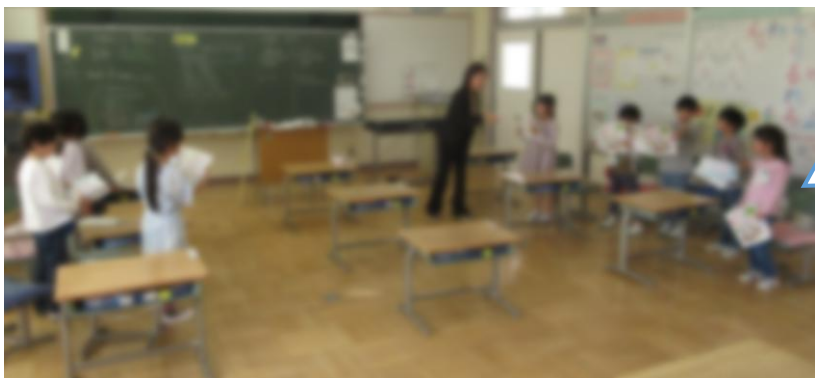
それぞれ同じ大きさを歌っている！



「こたえ」がそろっていないなあ…。



子供が自らの学習を振り返る場面の設定



本当のやまびこみたいに「こたえ」を少し小さく歌いたい！



子供の思いを価値付ける



「こたえ」を少し小さく歌ったときの方が、きれいに聴こえるね！



■ 指導と評価の工夫

①教材との出会いを大切にするために、導入時に「ヤッホー体操」という遊びを行い、子供の「もっとやりたい！」という気持ちを引き出してから教材曲の学習を進める。

* 表現の工夫を考えるために、主体的に様々な歌い方を試すことにつながる。

②録画した「やまびこごっこ」を視聴し、自分たちがどのように歌っているかを捉える。

* 自分たちの歌がどのように聴こえるか、歌いながらの判断は難しいため、録画することで客観視し批評することができる。

③「呼びかける側」と「こたえる側」に分かれて、試しながらよりよい表現を追求させ、どのように歌ったのか、なぜそのようにしたのかを問い返す。

* 試して歌ったり、友達と相談したりを繰り返すことで、どのように歌いたいかについて思いをもつことができる。

* 教師が問い返したり、価値付けしたりすることによって、思いが明確になり、評価にもつなげることができる。

■ 成果（○）と課題（▲）

○これまでの学びを生かし、どのように歌うかについて考えられた。

○導入を工夫して意欲を高められたことで、主体的に歌って試しながら、どのように歌うかについて思いをもつことができた。また、思いを聞き出し問い返すことで、学習調整を促すことができた。

▲「呼びかけとこたえ」という要素の捉えが甘く、呼びかけに関係なく、どのように歌うかについて思いをもつ子供がいた。

▲意見交流が苦手な子供に対して、思いを言語表現するとき、選択肢をつくるべきだった。